



「統合報告書 住友精化レポート2024」

第三者検証 意見書

2024年8月30日

住友精化株式会社
代表取締役社長 小川 育三 殿

一般社団法人 日本化学工業協会
レスポンスブル・ケア検証センター長

石井 浩

■ 検証の目的

レスポンスブル・ケア報告書検証は、住友精化株式会社が作成した「統合報告書 住友精化レポート2024」(以後、報告書と略す)に記載された下記の事項について、レスポンスブル・ケア検証センターが化学業界の専門家の意見を表明することを目的としています。なお、検証範囲は財務情報を除くものとします。

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性
- 2) 数値以外の記載情報の正確性
- 3) レスポンスブル・ケア活動及びCSR活動の評価
- 4) 報告書の特徴

■ 検証の手順

- ・本社において、各サイト(事業所、工場等)から報告される数値の集計方法の合理性、及び数値以外の記載情報の正確性について調査を行いました。調査は、報告書の内容について各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること、並びにそれぞれの責任者より資料提示と説明を受けることにより行いました。
- ・千葉工場において、本社に報告する数値の算出方法の合理性、数値の正確性及び数値以外の記載情報の正確性の調査を行いました。調査は、各業務責任者及び報告書作成責任者へ質問すること、資料提示・説明を受けること、並びに証拠物件と照合することにより行いました。
- ・数値及び数値以外の記載情報の調査については、サンプリング手法を適用しました。

■ 意見

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性について
 - ・数値の算出・集計方法は、本社及び千葉工場において、合理的な方法を採用しています。
 - ・データ集計システムの活用と、担当者間の相互確認で、パフォーマンスの数値は正確に算出・集計されています。
- 2) 数値以外の記載情報の正確性について
 - ・報告書に記載された情報は、正確であることを確認しました。原案段階では表現の適切性あるいは文章の分かり易さに関し、若干の問題があることを指摘しましたが、現報告書では修正されており、現在修正事項は認められません。
- 3) レスポンスブル・ケア(RC)活動及びCSR活動の評価について
 - ・階層別教育、グローバル人材の育成、女性社員の活躍推進、男性育児休業取得率の向上、働く環境の整備など、人的資本の強化に取り組まれていることを評価します。
 - ・サステナビリティへの取り組みは、サステナビリティ基本方針のもと、社長を委員長とする委員会を設置し、傘下の推進部隊を含め、グループ全体の司令塔として、年間計画の立案、推進状況の確認、的確に指示されていることを評価します。
 - ・化学物質の管理に関しては、各国規制など最新情報の収集に努めるとともに、新たな製品管理システムを導入し、製品に含有する物質情報と各種法規制を連携させて、管理が充実していることを評価します。
 - ・人権やハラスメントを含むコンプライアンス全般に関する相談や意見を、従業員だけでなく、取引先など広い範囲で受けていることに対して、その取り組み姿勢を高く評価します。
 - ・千葉工場では、構内グループ会社・協力会社を含めた安全活動を展開し、取り扱っている全規制化学物質のリスクアセスメントの実施、「災害マップ」を活用した事例検討などに取り組み、休業無災害が35年間継続していることを評価します。
- 4) 報告書の特徴について
 - ・「研究開発戦略」は、研究開発方針、注力分野とともに、現在進められている研究開発内容が紹介されており、住友精化の研究開発の進め方を示したものと、読者の参考になります。(P28-P30)
 - ・住友精化グループが、人権を尊重した事業活動、職場づくりに取り組みとともに、サプライチェーンを含むビジネスパートナーにも人権尊重に協働を求めています。この取り組みが読者の参考になります。(P42-P45)

以上